

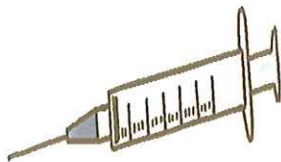


# 病後児保育だより

令和6年10月8日

夏の暑さも和らぎ、秋らしくなってきました。季節の変わり目で朝夕と日中の気温の差から体調を崩しやすくなって、風邪や胃腸炎などさまざま感染症が流行してくる時期でもあります。手洗いやうがいをしっかりして、衣服の調節や1日3食の食事をきちんと食べ睡眠を十分にとり、免疫を高めて病気に負けない身体づくりをしていきましょう。

## インフルエンザの予防接種が始まります



10月の中旬から、各医療機関でインフルエンザの予防接種が始まります。

インフルエンザは例年12月～4月ごろまで流行し、1月末～3月上旬に流行のピークを迎えます。十分な抗体ができるまでには2回目接種から2週間以上かかりますので、1回目の接種は遅くとも11月上旬にはすませましょう。



インフルエンザに感染すると、高熱、咳や鼻水、喉の痛み、筋肉痛などの辛い症状を伴います。家族に感染することも多いため、みんなで予防を心がけましょう

### 予防をするには

- ① 予防接種をうけるようにする
- ② 外から帰ったら、必ず手洗い、うがいをする
- ③ 栄養のある食事と、水分をとる
- ④ 室内の温度と、湿度に気をつけ、こまめに換気する



## インフルエンザについて

学校保健安全法が下記のように定められています。  
病後児の利用もこちらの通りにさせていただきます。  
発症した後5日を経過し、かつ、解熱後3日を経過するまで利用できません。

発熱日数	発症日当日	発症後1日	発症後2日	発症後3日	発症後4日	発症後5日	発症後6日	発症後7日	発症後8日	発症後9日
1日							OK			
2日							OK			
3日								OK		
4日									OK	
5日										OK



### 病後児保育はどんなときに利用できるの？

- ① 風邪や胃腸炎において、急性期(発熱・下痢・嘔吐)を経過したあと  
\* 38度以上の熱・下痢・嘔吐のいずれかの症状があるときは利用できません。
- ② 水痘や風疹・インフルエンザなどの感染症疾患においては、他の児童に感染するおそれのある感染期を経過したあと
- ③ 喘息など慢性疾患においては、発作が治まったあと
- ④ 骨折や火傷などの外傷疾患  
\* どの症状においても、医師による診断(連絡票)が必要となります。

★熱は(38度以上)下がったけれど、微熱がある・・・

★熱はないけれど、まだ咳や鼻水が出る

★嘔吐や下痢はおさまったけれど、まだ本調子ではない

などの状態で、集団での活動をするに不安や心配がある時に、お子さんの状態に合わせてゆったりと保育をおこなうことができます。

### ＊ 利用状況 ＊

7月・・・1名 8月・・・0名 9月・・・0名